

東久留米市立第三小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正確に読み書きすることや日常的に使用することに課題がある。(読みに課題：1割 書きに課題：2割 日常的に使用することに課題：3割) 文章の構成「はじめ・なか・おわり」に気を付けて書く力に課題がある児童が約4割程度いる。 	<p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の指導を計画的(1日に3文字ずつ)に行い、取りこぼしがないようにする。 例文を声に出して読んだり、自分が書いた文章を声に出して読んだりすることで、正しく読む力を高めたり、漢字の日常的な使用につなげることで、各課題ごとに5%以上向上させる。 <p>指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ねらいや相手、目的が明確な書く活動を計画的に指導計画に入れる。 児童の意欲を引き出させる題材を工夫する。 <p>個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援のレベルによって学習モデルを提示し、個別指導の充実を図る。 ○7割以上の児童が「はじめ・なか・おわり」を意識して文章を書けるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な加減乗除の計算に時間がかかる児童や結果の正確性が不安定な児童が、3割程度いる。(前年度までの学習の理解及び習得が不十分) 文章題の内容理解(構造把握)に課題があり、問題に正対した解答をすることに課題のある児童が、約5割程度いる。 	<p>指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を理解・習得する時間を、毎時間数分間取り入れることで、前年度までの学習内容の理解を促進する。 <p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤答分析の時間を計画的に設け、共通の言語として注意点を理解させる。 具体物や図を積極的に活用して、文章を視覚的にイメージしやすくし、8割以上の児童が理解できるようにする。 <p>学習集団編制</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに既習事項を把握するレディネステストを実施し、課題に応じた学習集団編制(習熟度別少人数指導)をする。 学習集団ごとに、問題設定や学習展開及び手立ての工夫をし、それぞれの課題に合った指導を展開する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験などから問題づくりをすることに課題がある児童が3割程度いる。(頭の中ではうかんでいても自分の言葉で声を発することが苦手) 実験結果からどのようなことが分かるのか、考察に課題がある児童が3割程度いる。 	<p>学習活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活経験になるような実験をしてから問題づくりに取り組ませる。問題の「～だろうか。」といった語尾の言葉に注目させて取り組ませる。8割以上の児童が想起して書けるようにする。 <p>まとめ・振り返りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の目的を思い出させるために、めあてや問題に戻って考えるように指示する。8割以上の児童が書く活動の際に意識して書けるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を支持する腕の力や、前転や後転において体を支えることに課題がある児童が2割程度いる。 立ち幅跳び、反復横跳び、50m走など全身を連動させてする運動(脚力)に対して、課題が見られる児童が2割程度いる。 	<p>指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて準備運動の中に「自分の体を支える運動」を取り入れて継続的に繰り返し取り組むことで、8割以上の児童が腕支持のコツを掴むことができるようにする。 学習内容に合った補助運動に十分に取り組み、全身を使う運動経験を確保する。 <p>学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童同士で動きを見合う時間を設定し、よい動きをモデルとしたり、個別支援の充実を図ったりして、活動に対する意欲を高める。